

回転寿司チェーンのグローバル展開と会計業務の標準化に向けて SAP ERPをAWSのクラウド環境上に構築

株式会社あきんどスシロー 様

SAP ERP導入事例

株式会社あきんどスシローは、関西を中心に回転寿司チェーン「スシロー」を372店舗(2014年8月時点)展開しています。また、2011年12月には海外展開への足がかりとして韓国への出店を果たしました。そしてさらなるグローバル化を目指す同社は、会計システムのグローバル対応を実現するため、SAP ERPを採用。NTTデータ グローバルソリューションズの支援を受けて、アマゾン ウェブ サービス(AWS)のクラウド環境上に5カ月の短期間で新会計システムを構築。これにより、会計業務の標準化とシステム運用のレベルアップが実現し、海外進出に向けた体制を整えることに成功しました。



情報システム部長
田中 寛氏

「SUSHIRO」の海外展開に向けて グローバル会計システムを導入

「うまいすしを、腹一杯。うまいすしで、心も一杯。」を企業理念に回転寿司チェーン「スシロー」を展開するあきんどスシロー。その年間売上高は1,200億円に迫り、2011年には年間売上高で日本一を達成しました。現在も、原価率約50%の旬のネタやオリジナルの創作寿司を武器に、業界のトップを走り続けています。

海外で日本食ブーム、寿司ブームが起こる中、あきんどスシローは積極的に海外に進出してきました。2011年12月に韓国ソウルに第1号店を出店したのを皮切りに、現在は「スシロー 코리아」として韓国で7つの店舗を運営し、2020年までに80店舗の展開を目指しています。

「SUSHIRO」の海外展開を進めていく上で、課題となっていたのが会計システムです。それまでは日本の会計基準に特化した国産のパッケージを使い、連結会計処理は手作業で行っていました。「今後、アジア、欧米各国に店舗を展開していく上

で、グローバル体制の強化は必須です。その中でも最も重要なポイントとして、IFRS(国際財務報告基準)、日本の会計基準、韓国の会計基準に合わせた会計処理の実現が迫られていました」と田中氏は説明します。

さらに既存の会計システムでは、手作業、二重入力、作業の属人化が発生し、本社業務の効率化を妨げる要因になっていたといえます。

「長年にわたって使い込まれてきたシステムゆえ、前任の担当者がやりやすいように仕様変更を積み重ねてきたために、今の担当者でなければわからない処理も多く、使い勝手の悪さが経理部門の負担になっていました」(田中氏)

これらの課題を解決するため、あきんどスシローはグローバル標準の会計システムを導入。業務プロセスを標準化することを決断しました。

コストと信頼性のバランス 独自の会計テンプレートを評価

あきんどスシローは、複数の会計パッケージを検討した中から、世界中の企業のノウハウをベストプラクティスとして実現しているSAP ERPの採用を決定。開発パートナーにはグローバルでの導入・運用実績が豊富なNTTデータ グローバルソリューションズ(以下、NTTデータGSL)を指名しました。NTTデータGSLを採用した理由として田中氏は「信頼性と豊富な製品群」を挙げ、次のように説明します。



会社概要

株式会社あきんどスシロー

設立	: 1984年6月
資本金	: 206億40万円
売上高	: 1,193億円(2013年9月期 連結)
従業員数	: 正社員1,176名 (アルバイト・パート約34,500名) (2013年9月末日現在)
本社所在地	: 大阪府吹田市江坂町1-22-2
URL	: http://www.akindo-sushiro.co.jp/
事業内容	: 回転寿司チェーン「スシロー」の経営



会社紹介

1975年に大阪市阿倍野区で開業した「鯛すし」を原点に、1984年、大阪府豊中市に「すし太郎」を出店して事業を開始しました。現在は「うまいすしを、腹一杯。うまいすしで、心も一杯。」を企業理念に、回転寿司チェーン「スシロー」を全国に372店舗(2014年8月時点)展開。メニューは、1皿100円(税別)のネタを中心に、1皿180円(税別)の「吟味ネタ」を加え、約80種類を揃えています。「IT環境の整備にも積極的で、2002年にはすべての寿司皿の下にICタグを付けて、レーンに流れる寿司をリアルタイムに管理する「回転すし総合管理システム」を世界で初めて導入。いつ、どんな寿司がレーンに流され、どのタイミングで食べられたのかをカウントしながら、寿司の鮮度や売上状況を管理しています。



導入ポイント

- ◆ AWS上にSAP ERPを5カ月で導入
- ◆ IFRS、JGAAP(日本)、KGAAP(韓国)に対応したグローバル会計システムを構築
- ◆ 会計テンプレートをを用いたノンカスタマイズ導入で会計業務を標準化
- ◆ AWSと会計業務を熟知したコンサルタントによる導入支援

「当初からカスタマイズはしない方針を掲げていたので、SAPをよく知るSierであることが絶対条件でした。その中で、コンサルティングファームよりも低コスト、かつ業務面とシステム面の双方からバランスの取れた提案をしてくれたのがNTTデータGSLです。アサインされたベテランのPMと若手のコンサルタントは、IFRSや財務会計に関する知識も豊富で、会話を重ねていく中で、信頼できるパートナーと判断できました」

その他にも、NTTデータGSL独自の会計テンプレートを活用した短期間での導入、運用ツール「Hinemos」やワークフロー「intra-mart」など、外部システムとの連携を実現するNTTデータグループの製品群の活用、さらには導入後もインフラからアプリケーション(Basis・AMO)までを一括保守サポートするという点が採用の決め手となったそうです。

クラウドファーストという方針のもと、AWS上へのシステム構築を推進

SAP ERPを運用するインフラ基盤には、アマゾンが提供するクラウドサービス、AWSを採用しました。あきんどスシローでは2012年から店舗システムやホームページをAWS上に移行してきた経緯があり、当初からAWS上にSAP ERPを導入する構想を描いていたといえます。

「データベースとして使う統合DBとDWHがAWS上にあるため、AWSの活用は大前提でした。NTTデータGSLは、これまでもEC企業の業務システムの構築でSAP ERPをAWS上に導入した実績もあり、それを踏まえた上で提案をいただきました」(田中氏)

プロジェクトは、2013年10月にスタート、5カ月後の2014年3月3日には本稼働を開始しています。短期間での導入が実現した要因の1つとして、AWSの採用によるインフラ構築期間の短縮が挙げられます。クラウドの場合、サーバーの調達、サイジング、設置などインフラの準備が不要で、開発環境、本番環境も必要なタイミングで準備が可能です。さらに、バックアップや監視などの運用環境の構築も容易で、AWSで提供している災害対策(DR)環境を利用できる点もメリットです。

今回の導入では、財務最高責任者(CFO)の理解があって、会計テンプレートの標準機能を利用する方針を経理部門へ徹底したことも短期間・低コストでの導入につながりました。

「経理部門の担当者には、標準機能を維持したまま運用の変更でカバーするよう理解を促ることで、アドオン開発をゼロに抑えています。NTTデータGSLのコンサルタントには、日本の商習慣に合わない業務は運用で回避するようなアドバイスをいただけたことで、アドオン開発ゼロでも最適なシステムが構築できました」(田中氏)



スピード感ある、あきんどスシロー様の経営理念を支えるIT基盤。選ばれたのはAWSでした

「ピーク時に合わせたハードウェアではもったいない。AWSならば、サイジングや機器調達なしですぐにスタートでき、必要な時に必要なだけリソースが利用可能」

グローバルスタンダードのSAP ERP。一方で「何とか実現したい日本独自の商習慣機能」。NTTデータGSLの会計テンプレートは、この2つのバランスを持っていることも評価のポイントでした。

「現場からの要望を“機能”に頼るのではなく、運用面でカバーするコツやノウハウを知っていたことも短期間で導入につながっています。また、企画フェーズから入ったコンサルタントが実際にPMとなり、最後までマネジメントしてくれたため、安心感がありました。スケジュールを守って段取りよく開発を進めていただいたおかげで、大船に乗った気持ちでカットオーバーの日を迎えることができました」と田中氏は当時を振り返っています。

会計業務の属人化が解消 現場の誰もが納得感を持って仕事

SAP ERPの導入により、あきんどスシローは目的としていたグローバル会計の統合を実現しました。現在は、日本国内の経理部門の担当者(10数名)が国内の会計処理業務を行っている段階ですが、今後は「スシローコリア」の会計処理でも活用し、連結処理を完結させる予定です。田中氏は「IFRS、JGAAP(日本)、KGAAP(韓国)の3つの会計基準が一元化できたことが大きな成果です」と述べています。国内の会計処理では、Excelで別処理を行っていた固定資産管理もSAP ERP上で完結し、会計業務全体が大幅に効率化されました。また、周辺システムとの連携によって会計システムへのデータ入力も一元化され、IT統制が実現しています。さらに、会計業務の属人化が解消されたことで、業務の標準化が進んだことも効果の1つです。

「経理の現場では、『何でもこんなことをやらなければいけないのか?』という従来の環境で感じていた不可解な処理がなくなり、誰もが納得感を

持って業務ができるようになりました」(田中氏) システム運用面では、同じNTTデータグループの運用監視ツール「Hinemos」を利用して、システム監視と運用監視の2つを行っています。「サーバーのタイマー機能を利用してジョブのスケジュールを管理していた従来環境では、エラーが起こると翌日に手動で再実行していました。

Hinemosに切り替えてからは、エラーが発生しても自動で再実行され、さらにアラートが送られてくるので安心して対処できます」(田中氏)。

SAP ERPのカバー領域を拡大し全システムをAWSに統合

情報システム部門の要員が5名しかいないあきんどスシローにとって、SAP ERPをアドオンレスで導入し、運用の効率化を実現したことは、顧客サービスに直結する店舗システムにリソースを集中する上でも意義のあるプロジェクトでした。今後は、SAP ERPでカバーする業務領域を拡張し、管理レベルをさらに高めていく予定です。「購買管理(PO)機能を拡張して、発注業務をSAP標準に合わせて精密化することで、予算管理の精度を高めていく予定です。そのため提案をNTTデータGSLに依頼しています」(田中氏)

また、現在はSAP ERP以外のシステムで管理している商品マスターも、SAP内部で一元管理することで、管理レベルの向上とガバナンスの強化を目指していくことを検討しています。さらには、現在、オンプレミス環境やホスティング環境で運用しているシステムも含めて、AWS上への統合を進めていくロードマップを描いているようです。

NTTデータGSLは、SAP on AWSで日本の食文化の輸出を目指しているあきんどスシローのグローバル戦略を、システムの導入・保守・運用を通して支えています。

株式会社NTTデータ グローバルソリューションズ

E-mail infoevent@nttdata-gsl.co.jp URL <https://www.nttdata-gsl.co.jp/>

【本社】 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-4 浜離宮三井ビルディング 4F
【西日本オフィス】 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町2-6-8 センバ・セントラルビル 3F

※SAP及びその他のSAPの製品やサービスは、ドイツ及びその他の国におけるSAP SE(またはSAPの関連会社)の商標もしくは登録商標です。
※その他記載されている会社名、製品名、ロゴなどは、各社の登録商標または、商標です。
※本リーフレットに掲載されているロゴ、文章、写真その他のイラストを無断で転載、複製、再利用を禁止します。
※記載されている企業名および担当者の情報は取材当時のものです。

Facebook 公開中!



「いいね!」して下さい!



<https://www.facebook.com/nttdatagsl>